

年長児の「幼稚園をみんなで遊べる場所にしたい」という考えで、遊びの国づくりが始まった。一人ひとり、自分のやってみたい遊びを考え、コーナーに分かれた遊びが設定された。

I ねらい

- ・自分の思いを伝え、友達の意見を聞き協力して作る楽しさを知る
- ・いろいろな教材を使いイメージを膨らませる
- ・道具など安全に気をつけて使うことが出来る

II 環境構成と保育者の援助

- ・一人ひとりの考えを聞き、思いを実現することが出来るように、素材を考え充実させて、友達と関わり遊び込むことができる環境を考える。
- ・コーナーを設定して、継続して遊ぶことができるよう、時間、場所を保障する

III 保育の場面（年中・年長は縦割りのグループができた）

○「鬼が島を作りたい」そんな子どもの願いからそれぞれのコーナーへと発展した。

- ・鬼が島で鬼をやっつけた後は、(宝物)が必要だね
- ・「おなかすいちゃうよ」(レストラン)を作ろう
- ・デザートもいるね(ケーキ・スイーツの店)
- ・ゲームをクリアしよう(輪投げ・まとあて・動物あて)

○年少では(忍者になって鬼を倒そう・ケーキ屋・ドーナツ屋
電車の駅と線路でつなげよう)

○幼稚園全体が遊びの国となった

- ・子どもたちのイメージに、教師はどの位近づくことができるのか教材研究が始まった。教材を使いながら、友達とアイデアを出し合い遊び込む姿が見られた。子ども達の声聞きながら新しい教材を用意していくことで遊びが発展していった。
- ・主体的に遊ぶことで自己を主張したり、相手の意見を受け入れたりする場面が多く見られ、一人ひとりが自分の好きなコーナーで遊びを深めていった。
- ・スイーツ屋さんではどうすれば本物のようになるか研究をしていった。洗濯糊、トイレットペーパー、絵の具を使い、ケーキの生地を作っていた。色付けの絵の具、糊とトイレットペーパーの量により硬さが異なることに気づいた子どもたちは、何度も試行錯誤を繰り返して本物に近いケーキの生地を作って行った。
- ・鬼が島を作ったチームでは「先生より大きな鬼を作ろう」「段ボール乗せるから〇〇君押さえて」「鬼にはパンツをはかせなくちゃ」「でも鬼が立っているとやりにくいよ」「みんなで寝かせよう」等考えあい協力する姿が見られた。チームのメンバーがイメージを共有し、同じ目的に向かい遊びだすと、一人ひとりの考えを受容して協力する姿が見られた。



(ケーキを作ろう)

「鬼は怖いから近づかないでって、書いておこう」「看板立てておく？」等



(看板を建てよう)



(ふわふわパンツにしよう)



(大きな鬼になってきた)

- ・自分の意見を伝え、相手の意見を聞き、協力する場面が多くなっていった。
- ・遊びが発展し夢中になって遊びだすと、対話がたくさん生まれ、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が、総合的に育まれていった。

IV 学びの評価

- ・友達と相談し、意見を出し合い、思いを共有することで、自分ひとりではできないダイナミックな活動となった。同じ目的に向かい、仲間意識が生まれ、創意工夫しながら、お互いに協力する姿が多く見られた。
- ・一人ひとりの子が自ら意欲的に遊ぶことが出来る活動であった。
- ・今までの活動の積み重ねによる体験が、1ヶ月遊びを継続することで深まっていった。
- ・友達とのやり取りの中でお互いに気づく場面が多かった。また自己主張するだけでなく、相手の意見を聞き、折り合いを付けながら発展させる場面が多く観られた。
- ・活動の後半の参観日では、お家の方に自分の言葉で説明する子ども達の姿が見られた。

V 次の時期のねらい

- ・子どもの興味関心を探り、遊びこむことが出来る環境を考える。
- ・日本の文化を感じながら遊ぶことができる環境を設定する。

VI 小学校との連携

- ・教育課程の相互理解が大切だと考える。幼稚園での遊びを通して行う総合的な教育を通して、一人ひとりの子がどのような体験をし、どのような学びをしたのか、具体的な姿を可視化して（ラーニングストーリーなど）伝えていくことが必要だと考える。
- ・またスタートカリキュラムなどは幼稚園の教諭も理解しておく必要があると考える。一緒に話し合いができる場があるといい。

VII その他

- ・幼稚園では保育の遊び（学び）をポートレートなどにより、保護者に伝える工夫をしている。遊びの中で学んでいることを知っていただき、幼稚園の教育に対して理解していただくとともに、子どもたちが幼稚園生活の中でどのような体験を重ね、友達と関わり、社会性を身につけていくか、学びのプロセスを保護者にもわかっていただくことが大切だと考える。
- ・子どもたちの成長を保護者とともに実感しながら、総合的な遊び（学び）を実現して行きたいと思う。